

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式／特殊型（ブル・ベア型）	
信託期間	2015年12月17日から2017年12月18日まで	
運用方針	信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要運用対象	円建の外国投資信託である「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲレバレッジ型・ブル・ベア・ファンド（適格機関投資家限定）（インド株・2.5倍・ベア・クラス）」および親投資信託である「マネーアカウントマザーファンド」を主要投資対象とします。	
	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲレバレッジ型・ブル・ベア・ファンド（適格機関投資家限定）（インド株・2.5倍・ベア・クラス）	主としてクレディ・スイス・インターナショナルを相手先とする担保付スワップを取引対象とします。 担保付スワップ取引を利用して、実質的に日々の基準価額の値動きがインド株の株価指数先物であるSGX Nifty 50指数先物の日々の騰落率の概ね2.5倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行います。
	マネーアカウントマザーファンド	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 外貨建資産への直接投資は行いません。	
	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲレバレッジ型・ブル・ベア・ファンド（適格機関投資家限定）（インド株・2.5倍・ベア・クラス）	店頭オプション、上場オプション、ETFに原則として直接投資を行いません。 有価証券の空売りは行いません。
	マネーアカウントマザーファンド	株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

T&Dブル・ベア・ファンド （インド株・ベア・コース）

運用報告書（全体版）（満期償還）
（償還日 2017年12月18日）

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「T&Dブル・ベア・ファンド（インド株・ベア・コース）」は、信託約款の規定に基づき、2017年12月18日に信託期間を満了し償還となりましたので、運用経過と償還内容をご報告申し上げます。

これまでのご愛顧に対しまして、厚く御礼申し上げます。

T&Dアセットマネジメント株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先

投信営業部 03-6722-4810

（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

<http://www.tdasset.co.jp/>

設定以来の運用実績、基準価額の推移等

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			債券組入比率	債券先物比率	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-レバレッジ型・プル・ベア・ファンド(適格機関投資家限定) (インド株・2.5倍・ベア・クラス) 組入比率	純資産総額
	(分配額)	税込み分配金	期中騰落率				
設定日 2015年12月17日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	% —	百万円 10
1期(2016年12月19日)	9,110	0	△8.9	—	—	94.9	13
償還日 2期(2017年12月18日)	(償還価額) 5,464.71		△40.0	—	—	—	9

(注) 基準価額および分配金は1万円当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、日々の基準価額の値動きが、インド株の株価指数先物であるSGX Nifty 50指数先物の日々の騰落率の概ね2.5倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行います。したがって、たとえ正確に運用目標が達成されたとしても、2日以上離れた日との比較においては概ね2.5倍程度反対の投資成果が得られる訳ではないため比較が出来ないことから、ベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

当期中の基準価額等の推移

年月日	基準価額		債券組入比率	債券先物比率	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-レバレッジ型・プル・ベア・ファンド(適格機関投資家限定) (インド株・2.5倍・ベア・クラス) 組入比率
	騰落率	騰落率			
期首(前期末) 2016年12月19日	円 9,110	% —	% —	% —	% 94.9
12月末	9,248	1.5	—	—	94.4
2017年1月末	7,964	△12.6	—	—	94.3
2月末	7,445	△18.3	—	—	94.0
3月末	6,959	△23.6	—	—	94.3
4月末	6,691	△26.6	—	—	94.0
5月末	6,254	△31.4	—	—	94.2
6月末	6,415	△29.6	—	—	94.6
7月末	5,715	△37.3	—	—	94.0
8月末	5,902	△35.2	—	—	94.2
9月末	6,088	△33.2	—	—	94.5
10月末	5,316	△41.6	—	—	93.8
11月末	5,347	△41.3	—	—	94.3
償還日 2017年12月18日	(償還価額) 5,464.71		△40.0	—	—

(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

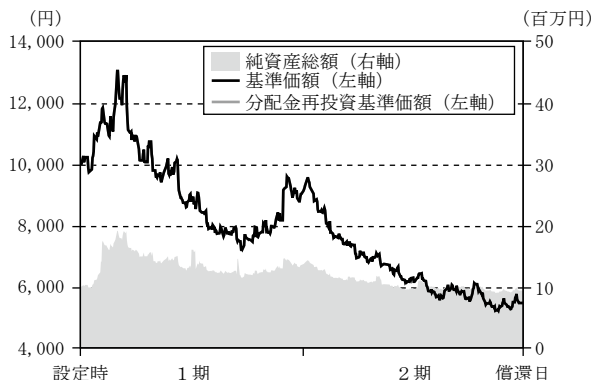
(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、日々の基準価額の値動きが、インド株の株価指数先物であるSGX Nifty 50指数先物の日々の騰落率の概ね2.5倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行います。したがって、たとえ正確に運用目標が達成されたとしても、2日以上離れた日との比較においては概ね2.5倍程度反対の投資成果が得られる訳ではないため比較が出来ないことから、ベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

設定以来の運用経過

■ 基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、設定日（2015年12月17日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

■ 基準価額の主な変動要因

「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲーレバレッジ型・ブル・ベア・ファンド（適格機関投資家限定）（インド株・2.5倍・ベア・クラス）」への投資を通じて、日々の基準価額の値動きがインド株の株価指数先物であるSGX Nifty 50指数先物の日々の騰落率に概ね2.5倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行いました。SGX Nifty 50指数先物が上昇した結果、基準価額（分配金再投資ベース）は下落しました。

■ 投資環境

【インド株式市況】

第1期（設定日～2016年12月19日）

期初から2016年2月下旬にかけては、原油価格と米国株の上昇を受けて一時的に反発する局面もありましたが、原油価格と中国株の下落、国内の経済改革進展の不透明感が強まったことやインドルピーが過去最安値圏まで下落したこと等を背景に下落しました。3月上旬から9月上旬にかけては、原油価格が上昇に転じたことや、米利上げ観測の後退、RBI（インド準備銀行）の利下げ等を好感して上昇基調で推移し、9月上旬まで高値を更新し続けました。9月中旬から下旬にかけては、米早期利上げ観測とユーロ圏の量的緩和の長期化期待が後退したこ



とやインド陸軍によるパキスタン領内への越境攻撃で地政学リスクが意識されたことを背景に下落しました。10月上旬から期末にかけてはRBIが再利下げを決定しましたが、トランプ新米大統領の政策の不透明感や米長期金利の上昇による新興国からの資金流出懸念、高額紙幣廃止の発表による消費減速の懸念等から軟調に推移しました。

第2期 (2016年12月20日～償還日)

期初から2017年7月にかけては、米国の金利上昇懸念を背景とした新興国からの資金流出懸念や北朝鮮リスクの高まりなどにより一時的な調整局面もありましたが、住宅拡充策を盛り込んだ景気配慮型の新年度予算案や高額紙幣の廃止による個人消費への影響が解消されていくとの期待、地方選挙でモディ首相の与党勝利による改革の進展期待やGST（物品サービス税）が混乱なく導入されたことなどから株価は大きく上昇しました。8月から11月中旬にかけては、RBI（インド準備銀行）の利下げ実施を受け、株価が史上最高値を更新した後は、北朝鮮リスクが高まったことや発表されたインフラ投資拡大を含む景気対策により、財政赤字拡大が懸念され、軟調な展開が続きましたが、日米など先進国の景況指数が相次いで上振れしたことや米信用格付会社による格上げなどを背景に上昇しました。11月下旬から期末にかけては、中国の金融市場の監督強化継続発表や北朝鮮における地政学リスクの再燃から一時下落しましたが、その後は、地方選挙でモディ首相の与党勝利との見方が広がると、政権安定への安心感から上昇に転じました。

SGX Nifty 50指数先物

T&Dブル・ベア・ファンド（インド株・ベア・コース）（以下、「本商品」）は、インド インデックス サービスズ&プロダクツ リミテッド（以下、IISL）によって支持、保証、販売又は販売促進されるものではありません。IISLは、明示的にも暗示的にも、本商品の所有者もしくは一般の者に対して、有価証券全般または本商品に関する投資について、またインドにおいてNifty 50指数（以下、「本指数」）が市場全般のパフォーマンスに追従する能力について、何ら表明、条件付け又は保証するものではありません。IISLのT&Dアセットマネジメント株式会社に対する唯一の関係は、IISLがT&Dアセットマネジメント株式会社又は本商品に関係なく決定、作成及び計算する本指数並びにIISLの登録商標についての利用許諾を与えることです。IISLは、本指数の決定、作成及び計算において、T&Dアセットマネジメント株式会社又は本商品の所有者の要求等を考慮に入れる義務を負うものではありません。IISLは本商品の販売に関する時期、価格の決定、又は本商品を現金に換算する式の決定もしくは計算に責任を負わず、また関わっていません。IISLは、本商品の管理、マーケティング又は取引に関する義務又は責任を何ら負うものではありません。

IISLは、Nifty 50指数の計算及びその元になるデータの正確性及び完全性を保証するものではありません。また、IISLは、本指数に含まれるいかなる誤り、欠落又は障害に対する責任を負いません。IISLは、本指数又はそれらに含まれるデータの使用により、T&Dアセットマネジメント株式会社、本商品の所有者又はその他の人や組織に生じた結果に対して、明示的にも暗示的にも保証しません。IISLは、本指数又はそれらに含まれるデータに関して、商品性の保証や適合性について何ら保証するものではないことを明示し、かつそれに関して明示もしくは暗示の保証を行いません。以上のことに関わらず、特定の、罰則的、間接的あるいは結果的な損害（利益の損失を含む）について、仮にその可能性について事前に通知されていたとしても、IISLが責任を負うことはありません。

【国内短期金融市況】

第1期 (設定日～2016年12月19日)

国庫短期証券3ヵ月物利回りは低下しました。期初は $\Delta 0.02\%$ でしたが、2016年1月下旬に日銀がマイナス金利政策の導入を決定したことや、海外投資家の需要の高まりから金利水準は大きく低下し、期末には $\Delta 0.40\%$ となりました。

第2期 (2016年12月20日～償還日)

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期初の $\Delta 0.40\%$ から期末は $\Delta 0.18\%$ となりました。日銀による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」などの短期金利を低位に抑える金融政策が継続しましたが、日銀の国庫短期証券買入オペ動向の不透明感の高まりなどから利回りは上昇しました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲーレバレッジ型・ブル・ベア・ファンド（適格機関投資家限定）（インド株・2.5倍・ベア・クラス）」を高位に組み入れました。残りの資産につきましては「マネーアカウントマザーファンド」およびコールローン等で運用を行いました。満期償還に伴い、2017年12月中旬以降コールローン等による安定運用を行いました。

【クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲーレバレッジ型・ブル・ベア・ファンド（適格機関投資家限定）（インド株・2.5倍・ベア・クラス）】

直接株式等への投資を行わず、主としてクレディ・スイス・インターナショナルを相手先とする担保付スワップ取引を高位に組み入れ、実質的に日々の基準価額の値動きがインド株の株価指数先物であるSGX Nifty 50指数先物の日々の騰落率の概ね2.5倍程度反対となる投資成果を目指して運用を行いました。

【マネーアカウントマザーファンド】

国庫短期証券の利回りがマイナスとなった局面で組み入れを見送り、組み入比率を0%としました。その後も利回りがマイナスで推移したため、組み入比率は0%となりました。組み入比率が0%の期間については、資産を全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

1万口当たりの費用明細（2016年12月20日から2017年12月18日まで）

費用の明細

項目	当期		項目の概要
	2016/12/20～2017/12/18		
	金額	比率	
平均基準価額	6,612円		期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬	67円	1.012%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(32)	(0.485)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(32)	(0.485)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(3)	(0.043)	運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	1	0.016	(b) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監査費用）	(1)	(0.016)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	68	1.028	

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

売買および取引の状況 (2016年12月20日から2017年12月18日まで)

(1) 投資信託証券

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外 国 (邦貨建)	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン) III- レバレッジ型・プル・ベア・ファンド (適格機関投資家限定) (インド株・2.5倍・ベア・クラス)	口 360	千円 2,384	口 130 (1,650)	千円 873 (8,837)

(注) 金額は受渡代金。単位未満は切捨て。

(注) () 内は分割・償還による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
マネーアカウンタマザーファンド	千口 -	千円 -	千口 49	千円 49

(注) 単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2016年12月20日から2017年12月18日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2017年12月18日現在)

償還時における組入れはありません。

投資信託財産の構成 (2017年12月18日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	9,395	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	9,395	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および償還価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および償還価額の状況

2017年12月18日現在

項 目	償 還 時
(A) 資 産	9,395,060円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	9,395,060
(B) 負 債	50,407
未 払 信 託 報 酬	49,610
未 払 利 息	17
そ の 他 未 払 費 用	780
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	9,344,653
元 本	17,100,000
償 還 差 損 益 金	△ 7,755,347
(D) 受 益 権 総 口 数	17,100,000口
1 万 口 当 たり 償 還 価 額 (C / D)	5,464円71銭

- (注) 期首元本額 14,990,000円
 期中追加設定元本額 3,640,000円
 期中一部解約元本額 1,530,000円
 (注) 元本の欠損
 償還時現在、純資産総額は元本を下回っており、その差額は7,755,347円です。
 (注) 1口当たり純資産額は0.546471円です。

損益の状況

当期 自2016年12月20日 至2017年12月18日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 414円
支 払 利 息	△ 414
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 5,260,095
売 買 益	358,758
売 買 損	△ 5,618,853
(C) 信 託 報 酬 等	△ 108,538
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 5,369,047
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 616,974
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 1,769,326
(配 当 等 相 当 額)	(△ 92)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 1,769,234)
償 還 差 損 益 金 (D + E + F)	△ 7,755,347

- (注) 損益の状況の中で
 (C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2015年12月17日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2017年12月18日		資産総額	9,395,060円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減又は追加信託	負債総額	50,407円
				純資産総額	9,344,653円
受益権口数	10,000,000口	17,100,000口	7,100,000口	受益権口数	17,100,000口
元本額	10,000,000円	17,100,000円	7,100,000円	1万口当たり償還金	5,464.71円
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	14,990,000円	13,655,198円	9,110円	0円	0.0000%

償還金のご案内

1万口（元本10,000円）当たり償還金（税込み）

5,464円71銭

補足情報

マネーアカウントマザーファンドの主要な売買銘柄

当期における売買はありません。

組入投資信託証券の内容

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲーレバレッジ型・ブル・ベア・ファンド（適格機関投資家限定）
 （南アランド・2.5倍・ブル・クラス）／（南アランド・2.5倍・ベア・クラス）
 （ブラジルリアル・2.5倍・ブル・クラス）／（ブラジルリアル・2.5倍・ベア・クラス）
 （インド株・2.5倍・ブル・クラス）／（インド株・2.5倍・ベア・クラス）
 （中国株・2.5倍・ブル・クラス）／（中国株・2.5倍・ベア・クラス）
 （原油指数・2倍・ブル・クラス）／（原油指数・2倍・ベア・クラス）
 （米国リート・2.5倍・ブル・クラス）／（米国リート・2.5倍・ベア・クラス）

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

分 類	ケイマン籍／外国投資信託／円建			
運用の基本方針 主な投資対象	担保付スワップ取引を通じて、安定的なインカム収益の獲得と信託財産の成長を目指して運用を行います。 主としてクレディ・スイス・インターナショナルを相手先とする担保付スワップ取引対象とします。			
投資態度	①担保付スワップ取引を利用して、実質的に日々の基準価額の値動きが以下の通りとなる投資成果を目指して運用を行います。 ②実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。			
	南アランド・2.5倍・ブル・クラス	南アフリカの通貨ランドの円からみた日々の騰落率の概ね2.5倍程度	南アランド・2.5倍・ベア・クラス	南アフリカの通貨ランドの円からみた日々の騰落率の概ね2.5倍程度反対
	ブラジルリアル・2.5倍・ブル・クラス	ブラジルの通貨レアルの円からみた日々の騰落率の概ね2.5倍程度	ブラジルリアル・2.5倍・ベア・クラス	ブラジルの通貨レアルの円からみた日々の騰落率の概ね2.5倍程度反対
	インド株・2.5倍・ブル・クラス	インド株の株価指数先物であるSGX Nifty 50指数先物の日々の騰落率の概ね2.5倍程度	インド株・2.5倍・ベア・クラス	インド株の株価指数先物であるSGX Nifty 50指数先物の日々の騰落率の概ね2.5倍程度反対
	中国株・2.5倍・ブル・クラス	中国株の株価指数先物であるSGX FTSE China A50指数先物の日々の騰落率の概ね2.5倍程度	中国株・2.5倍・ベア・クラス	中国株の株価指数先物であるSGX FTSE China A50指数先物の日々の騰落率の概ね2.5倍程度反対
	原油指数・2倍・ブル・クラス	原油指数であるS&P GSCI原油指数（エクセス・リターン）の日々の騰落率の概ね2倍程度	原油指数・2倍・ベア・クラス	原油指数であるS&P GSCI原油指数（エクセス・リターン）の日々の騰落率の概ね2倍程度反対
	米国リート・2.5倍・ブル・クラス	米国リートの指数であるダウ・ジョーンズ米国不動産指数（トータル・リターン）の日々の騰落率の概ね2.5倍程度	米国リート・2.5倍・ベア・クラス	米国リートの指数であるダウ・ジョーンズ米国不動産指数（トータル・リターン）の日々の騰落率の概ね2.5倍程度反対
資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。				
主な投資制限	①店頭オプション、上場オプション、ETFに原則として直接投資を行いません。 ②有価証券の空売りは行いません。 ③純資産総額の10%を超える借り入れは行いません。 ④一発行会社の発行済株式総数の50%を超えて、当該発行会社の株式に投資しません。 ⑤流動性にかける資産の組入れは15%以下とします。 ⑥運用会社ならびに管理会社は、自己又は投資信託受益証券以外の第三者の利益を図る目的で行う取引等を行いません。			
決算日	4月30日			
分配方針	原則として、年1回分配を行います。			
投資運用会社	クレディ・スイス・マネジメント（ケイマン）リミテッド			

※ 次ページ以降の記載は、組入投資信託証券の関係会社より入手した情報をもとに作成しております。当社は、その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。
 (1)(2)：ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・コーより入手した監査済報告書を、当社が一部和訳したものです。
 (3)：クレディ・スイス・マネジメント（ケイマン）リミテッドより入手した情報をもとに作成しております。

(1) 各クラスの状況

作成基準日：2017年4月30日

	受益権総口数	純資産総額	1単位当たり基準価額
南アランド・2.5倍・ブル・クラス	1,160口	14,468,683円	12,473.0026円
南アランド・2.5倍・ベア・クラス	6,130	31,508,204	5,140.0007
ブラジルリアル・2.5倍・ブル・クラス	2,105	36,589,114	17,382.0019
ブラジルリアル・2.5倍・ベア・クラス	1,205	4,969,424	4,124.0033
インド株・2.5倍・ブル・クラス	1,345	16,620,169	12,357.0030
インド株・2.5倍・ベア・クラス	1,470	9,766,684	6,644.0027
中国株・2.5倍・ブル・クラス	1,830	18,618,424	10,174.0022
中国株・2.5倍・ベア・クラス	2,700	18,362,704	6,801.0015
原油指数・2倍・ブル・クラス	6,685	47,410,025	7,092.0007
原油指数・2倍・ベア・クラス	1,620	8,615,165	5,318.0031
米国リート・2.5倍・ブル・クラス	790	9,235,894	11,691.0051
米国リート・2.5倍・ベア・クラス	1,290	8,223,753	6,375.0023

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲー
レバレッジ型・ブル・ベア・ファンド（適格機関投資家限定）の純資産総額 224,388,243円

(注) 日付は現地基準です。

(2) 損益計算書

計算期間：2016年5月1日～2017年4月30日

単位：円

収益	
手数料収入	302,044
投資に係る実現損益	11,898,257
投資に係る未実現利益の増減	(29,318,350)
収益合計	(17,118,049)
費用	
事務代行手数料	302,044
費用合計	302,044
運用損益	(17,420,093)
運用による純資産増減	(17,420,093)

(注) 日付は現地基準です。

(注) () 書きは負数です。

(3) 組入資産の明細

作成基準日：2017年4月30日

スワップ

単位：円

	想定元本額	評価額
南アランド・2.5倍・ブル・クラス	11,600,000	14,468,680
南アランド・2.5倍・ベア・クラス	61,300,000	31,508,200
ブラジルリアル・2.5倍・ブル・クラス	21,050,000	36,589,110
ブラジルリアル・2.5倍・ベア・クラス	12,050,000	4,969,420
インド株・2.5倍・ブル・クラス	13,450,000	16,620,165
インド株・2.5倍・ベア・クラス	14,700,000	9,766,680
中国株・2.5倍・ブル・クラス	18,300,000	18,618,420
中国株・2.5倍・ベア・クラス	27,000,000	18,362,700
原油指数・2倍・ブル・クラス	66,850,000	47,410,020
原油指数・2倍・ベア・クラス	16,200,000	8,615,160
米国リート・2.5倍・ブル・クラス	7,900,000	9,235,890
米国リート・2.5倍・ベア・クラス	12,900,000	8,223,750
合計		224,388,195

(注) 日付は現地基準です。

マネーアカウントマザーファンド

運用報告書（全体版） 第16期（決算日 2017年12月11日）
（計算期間 2017年6月13日から2017年12月11日まで）

「マネーアカウントマザーファンド」は、2017年12月11日に第16期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目標として運用を行います。
主要運用対象	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債組入比率	債先物比率	純資産総額
	円	騰落中率			
12期（2015年12月10日）	10,038	0.0	54.5	—	百万円 1,055
13期（2016年6月10日）	10,037	△0.0	—	—	1,019
14期（2016年12月12日）	10,033	△0.0	—	—	1,383
15期（2017年6月12日）	10,029	△0.0	—	—	922
16期（2017年12月11日）	10,026	△0.0	—	—	601

(注) 基準価額は1万口当たり。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額 円	騰 落 率	債券組入比率 %	債券先物比率 %
		%		
期首(前期末) 2017年6月12日	10,029	—	—	—
6月末	10,029	0.0	—	—
7月末	10,028	△0.0	—	—
8月末	10,028	△0.0	—	—
9月末	10,027	△0.0	—	—
10月末	10,027	△0.0	—	—
11月末	10,026	△0.0	—	—
期 末 2017年12月11日	10,026	△0.0	—	—

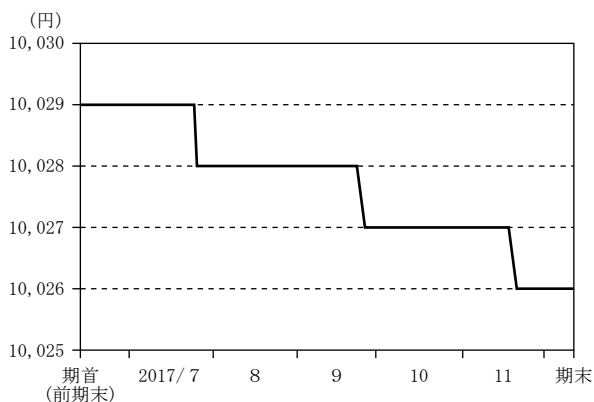
(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額の推移



■ 基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の10,029円からスタートし、期末は10,026円となりました。運用対象であるコールローン等の利回りがマイナスで推移したことから、下落となりました。

■ 投資環境

【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期初の△0.11%から期末は△0.17%となりました。日銀の国庫短期証券買入オペ動向の不透明感などから利回りが上昇する局面もありましたが、海外勢による需要の高まりなどを背景に金利は低下しました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

短期国債の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%としました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

■ 今後の運用方針

足許における比較的堅調な国内外の景気動向などを背景に、日本のインフレ率は上向いていくと予想しますが、依然、基調的なインフレ圧力は弱く、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いとみられます。こうしたなか、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、短期国債や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2017年6月13日から2017年12月11日まで)

当期において発生した費用はありません。

売買および取引の状況 (2017年6月13日から2017年12月11日まで)

当期における売買はありません。

利害関係人との取引状況等 (2017年6月13日から2017年12月11日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2017年12月11日現在)

当期末における組入れはありません。

投資信託財産の構成 (2017年12月11日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 661,045	% 100.0
投資信託財産総額	661,045	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年12月11日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	661,045,836円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	661,045,836
(B) 負 債	60,001,184
未 払 解 約 金	60,000,000
未 払 利 息	1,184
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	601,044,652
元 本	599,480,283
次 期 繰 越 損 益 金	1,564,369
(D) 受 益 権 総 口 数	599,480,283口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	10,026円

(注) 期首元本額 920,103,268円
 期中追加設定元本額 1,995,071,770円
 期中一部解約元本額 2,315,694,755円

(注) 1口当たり純資産額は1.0026円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳

T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)円ヘッジ・コース	66,127,026円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)米ドルプル・コース	12,370,307円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)米ドルベア・コース	810,623円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)ユーロプル・コース	154,330円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)ユーロベア・コース	1,712,731円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)豪ドルプル・コース	52,355,949円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)豪ドルベア・コース	430,154円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)リアルプル・コース	21,729,762円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型)インドネシアリアルベア・コース	636,065円
T & D J リートファンド限定追加型1402	488,474円
T&Dブル・ベア・ファンド(南アランド・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(南アランド・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(ブラジルリアル・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(ブラジルリアル・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(インド株・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(インド株・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(中国株・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(中国株・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(原油指数・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(原油指数・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(米国リート・プル・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(米国リート・ベア・コース)	49,811円
T&Dブル・ベア・ファンド(マネーボール・コース)	1,694,200円
リビング・アース戦略ファンド(年2回決算コース)	99,632円
リビング・アース戦略ファンド(年4回決算コース)	99,632円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5(インド・ダブルプル5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5(インド・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5(中国・ダブルプル5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5(中国・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5(リアル・ダブルプル5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5(リアル・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5(金・ダブルプル5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5(金・ダブルベア5)	19,931円
T&Dダブルプル・ベア・シリーズ5(マネーボール5)	440,014,218円

損益の状況

当期 自2017年6月13日 至2017年12月11日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 312,866円
支 払 利 息	△ 312,866
(B) 当 期 損 益 金 (A)	△ 312,866
(C) 前 期 繰 越 損 益 金	2,684,250
(D) 追 加 信 託 差 損 益 金	5,558,230
(E) 解 約 差 損 益 金	△ 6,365,245
(F) 合 計 (B + C + D + E)	1,564,369
次 期 繰 越 損 益 金 (F)	1,564,369

(注) 損益の状況の中で

(D)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。
 (E)解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。